

## 第 122 回 奈 良 医 学 会 記 事

平成 13 年 10 月 20 日(土)

会場 奈良医大臨床第 1 講義室

1) Ischemic preconditioning は虚血心筋において、PKC $\epsilon$  の核移行を介して VEGF mRNA の発現を増加させる

奈良医大第 1 内科学教室

川田 啓之

8 週齢の雄性 SD ラットを用いて、Ischemic preconditioning (IP)後に急性心筋梗塞(AMI)を発症させた。IPによりAMI発症後の心組織においてPKC $\epsilon$ が核移行し、次いで虚血部心筋細胞中のVEGF mRNAの発現が増加して、梗塞部での血管新生活動が促進された。また、IPにより梗塞サイズが縮小したことから、VEGFによる血管新生がIPの心保護作用に関与していると考えられた。

## 2) ハムスター短期腭癌系におけるサメ軟骨抽出物の腭癌抑制作用

奈良医大附属がんセンター腫瘍病理学教室

村田 奈保, 堤 雅弘, 佐々木康孝,

久保添忠彦, 小西 陽一, 国安 弘基

京都府立大学人間環境学部

佐藤 健司

ハムスター短期腭癌発生系を用い、サメ軟骨抽出物の腭癌抑制作用を検索した。BOPでinitiation後、腭管に前癌病変が出現してくる50日目よりサメ軟骨抽出物を0.2%, 0.4%の濃度で50日間混餌投与した結果、腭癌発生個数の有意な減少、サメ軟骨投与動物における血清中のMMP-9阻害活性増強がみられた。以上よりサメ軟骨抽出物の投与による腭癌の発生、進展の抑制、MMPs活性の抑制効果が示唆された。

## 3) 血友病 A インヒビターに対する免疫寛容療法の成立機転: 抗イディオタイプ抗体の役割

奈良医大小児科学教室

櫻井 嘉彦

血友病Aに対しては欠損凝固因子(FVIII)の補充療法が行われるが、補充した第VIII因子に対する中和抗体(インヒビター)がしばしば産生され治療に難渋する。インヒビターに対しては免疫寛容療法(ITI)が有効であるが、その成立メカニズムについての詳細はまだまだ明らかでない。今回、ITI有効例において抗FVIII抗体特異的抗イディオタイプ抗体が重要な役割を果たすことが明らかになったので報告する。

## 4) 咀嚼が前頭皮質グルタミン酸代謝に及ぼす影響

奈良医大口腔外科学教室

植村 和嘉, 杉村 正仁

大阪歯科大学歯科麻酔学教室

佐久間泰司

前頭皮質のグルタミン酸濃度を咀嚼障害ラットで測定し、咀嚼障害が情動に及ぼす影響について検討した。その結果、グルタミン酸濃度上昇は、切歯での捕食・咬み切りによる上昇と、臼歯で咬み砕き・すりつぶし・嚥下などによる咀嚼10分以降の上昇に分けられることが明らかとなった。またこれらの上昇にはAMPA/KA受容体が関与していることが示唆された。

## 5) 脳血管障害の中核性頭痛の電気刺激治療について

奈良医大脳神経外科学教室

木村 僚太, 平林 秀裕, 鄭 倫成,

井田 裕己, 榊 壽右

脳卒中の後遺症のひとつに求心性遮断療(いわゆる視床痛)がある。この痛みは、比較的軽微な脳卒中で、発症後数週間~数ヶ月に生じることが多く、痛みを軽減すれば、多くの患者でADLの改善が期待できる。この痛みはしばしば薬物抵抗性であり、電気刺激治療が試みられている。我々は、症例によって、大脳皮質運動の刺激(MCS)、脳深部電気刺激(DBS)、脊髄後索電気刺激(DCS)を使い分け治療しているが、今回は特にMCSの適応と有効性について報告する。

## 6) 含歯性嚢胞における関連埋伏歯とその萌出に関する研究

奈良医大口腔外科学教室

俵本 眞光, 川上 正良, 華本 眞悟,

桐田 忠昭, 杉村 正仁

われわれは若年者に発生した含歯性嚢胞70例(男性40例, 女性30例, 平均年齢11.5歳)について、その関連埋伏歯の萌出に關する要因に關してレントゲンの, 病理組織学的検討を行った。関連埋伏歯の萌出の成否は、年齢、齒根完成度、深さ、傾斜、萌出スペース、嚢胞の炎症の程度に影響された。特に、下顎小白齒に關連する嚢胞では、若年者で、浅部にあり、傾斜が緩やかなものほど萌出する傾向を示した。

## 7) 精神疾患患者における水中毒

奈良医大精神医学教室

平山 智英

慢性の精神病患者の中に、多飲により水中毒を呈するものがある。その病態としては急性に低ナトリウム血症(脳浮腫)を生じ、眩暈、嘔気、運動失調、痙攣ないし昏睡にわたる多彩な中枢神経症状を呈する。de Leon et al (1994)は、慢性入院患者の20%以上に多飲者が存在し、5%が水中毒のエピソードをもっていると報告している。今回、慢性精神病患者の水中毒の診断と治療について報告する。

## 8) 総合診療外来における患者・医師関係と診療結果への影響：当科開設1年間での活動を振り返って

奈良医大総合医療・病態検査学教室

団野 大介, 山本 由香, 本宮古都美,  
前田 光一, 神野 正敏, 松村 雅彦,  
藤本 隆, 藤本 眞一, 中村 忍

目的：患者・医師関係が診断結果や経過に与える影響を検討した。方法：最近1年間に当科に受診した初診患者について、患者の訴えの強さをわれわれが新たに作成した基準に基づいて評価し、診断結果と受診後の経過も調査した。結果：通院を中止した例は、訴えの少ない例に多かった。訴えの比較的多い例で最終的に異常なしとされた例が高頻度に認められた。結論：患者の訴えの強さの評価は、病歴聴取時の参考所見として有用である。

## 特別講演 I

## 動脈の加齢変化と元素の相関

第1解剖学教室 東野 義之

系統解剖学実習遺体を用いて、動脈の元素含量の加齢変化をプラズマ発光分析法により研究した。この分析法は多数の元素含量を同時に測定できるという長所があり、細く短い動脈でも多くの元素含量を測定できる。動脈のCa, P, Mgの含量はいずれも加齢に伴い増加し、また、動脈のCaとP含量, CaとMg含量, およびPとMg含

量の間非常に高い相関が認められた。従来、加齢に伴い動脈にCaやPが蓄積されると、動脈のMg含量が減少すると考えられていたが、動脈の化学的分析の結果、MgがCaやPと同時に動脈に蓄積されることを明らかにした。

## 特別講演 II

## 超音波診断法の進歩：肝腫瘍性病変に対する造影US

腫瘍放射線科教室 大石 元

肝癌の大部分が超音波により検出・診断されている。超音波診断は、B-モード画像における分解能の向上、カラードブラ感度の改善、ハーモニックイメージングの導入、末梢静脈投与可能な造影剤であるレボピストの開発など、大きな進歩がみられている。そして、これらの超音波診

断の進歩は肝癌の予後の改善に寄与している。レボピストを使用した造影エコー法により、明瞭な流入動脈の描出・明瞭な腫瘍の造影像が確認できる。したがって、本法は肝腫瘍病変の質的診断、および動脈塞栓術後の治療効果の判定に有用である。

## 招待講演

## 心の進化と発達—チンパンジー—乳児の発達研究から見えてくるもの

チンパンジーの乳児, Ayumu, Cleo, Pal とその母親を対象にして、心の進化と発達についてこれまでに得られた研究成果を講演していただいた。

チンパンジーでは、母親に何も訓練しないと自分の子供を育てないが、縫いぐるみを抱かせるという訓練を出産前に行っておくと、生まれた子供を世話するようになること、チンパンジーの新生児が微笑すること、生後1カ月程度で母親の顔を認識すること、チンパンジー親子

京都大学霊長類研究所思考言語分野 友永 雅己が1日に何度も見つめ合うことなどの興味深いことをユーモアを交えてお話戴いた。

チンパンジーの研究が研究者とチンパンジーとの16~20年の間に築かれた信頼関係を基に行われていて、一朝一夕にはできない、非常に気の長い、辛抱強い研究であることを良く理解できた。友永先生、ありがとうございました。

**The Nara Medical Association  
122th Meeting**

(October 20, 2001)

- 1) **Ischemic preconditioning upregulates vascular endothelial growth factor mRNA expression and neovascularization via nuclear translocation of protein kinase C $\epsilon$  in the rat ischemic myocardium**  
*First Department of Internal Medicine, Nara Medical University*  
Hiroyuki KAWATA
- 2) **Inhibitory effect of shark cartilage extract on pancreatic ductal carcinogenesis in hamsters**  
*Departments of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University*  
Nao MURATA, Masahiro TSUTSUMI, Yasutaka SASAKI, Tadahiko KUBOZOE, Yoichi KONISHI, Hiroki KUNIYASU  
*Department of Food Sciences and Nutritional Health, Kyoto Prefectural University*  
Kenji SATO
- 3) **The mechanism of immune tolerance induction therapy for hemophilia patients with inhibitor: The role of anti-idiotypic antibody**  
*Department of Pediatrics, Nara Medical University*  
Yoshihiko SAKURAI
- 4) **Relationships between the concentration of glutamic acid in the rat frontal cortex and mastication**  
*Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University*  
Kazuyoshi UEMURA, Masahito SUGIMURA  
*Department of Anesthesiology, Osaka Dental University*  
Yasushi SAKUMA
- 5) **Efficacy of neurostimulating therapy for deafferentation pain**  
*Department of neurosurgery, Nara Medical University*  
Ryota KIMURA, Hidehiro HIRABAYASHI, Yoshinari TEI, Yuuki IDA, Toshihiko SAKAKI
- 6) **The study of the eruption of the impacted tooth associated with dentigerous cyst**  
*Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University*  
Masamitsu HYOMOTO, Masayoshi KAWAKAMI, Shingo HANAMOTO, Tadaaki KIRITA, Masahito SUGIMURA
- 7) **Water intoxication in psychiatric patients**  
*Department of Psychiatry, Nara Medical University*  
Tomohide HIRAYAMA
- 8) **Degree of patient complaints and its influence on clinical diagnosis**  
*Department of General Medicine and Clinical Investigation, Nara Medical University*  
Daisuke DANNO, Yuka YAMAMOTO, Kotomi MOTOMIYA, Kouichi MAEDA, Masatoshi KANNO, Takashi FUJIMOTO, Masahiko MATSUMURA, Shinichi FUJIMOTO, Shinobu NAKAMURA